

題材：「篤姫の小物入れ」 評価基準と支援

【関】：関心・意欲・態度 【発】：発想や構想の能力 【技】：創造的な技能 【鑑】：鑑賞の能力

時 配	主な学習活動	学習活動における具体的な評価基準(評価資料)	評価基準及び評価後の支援(⇒)		
			A(十分に満足)	B(おおむね満足)	C(努力を要する)
1	作者の思いを知る。	【関】【鑑】 ☆ワークシート ・作者の思いを自分なりにイメージして、タイトルや感想を書くことができる。 (ワーク・活動の様子)	作者の思いを自分なりにイメージして、タイトルや感想を様々な考えや自分なりの想像を膨らませ書くことができる。 ⇒活動を賞賛し、やる気をもたせる。	作者の思いを自分なりにイメージしてタイトルや感想を書くことができる。 ⇒人物の表情や色づかいなどに着目させる。	自分なりのタイトルを書いている。または感想を書いている。 ⇒感想がなかなか書けない生徒には、絵の構図や色、形などから受ける印象を聞き、支援を行う。
	美術の中の工芸について知る。	【鑑】 ・ジャンルの区別について理解でき、それぞれの表現形態や様式のよさについて理解することができる。 (ワーク・活動の様子)	ジャンルの区別とそれぞれの作品の表現形態及び様式のよさについて理解でき、自分の言葉で表現できる。 ⇒活動を賞賛し、やる気をもたせる。	ジャンルの区別について理解でき、それぞれの表現形態や様式のよさについて理解することができる。 ⇒よさをどのような言葉に置き換えるかということを考えさせ、自分なりの表現ができるよう支援する。	ジャンルについて理解しようとしている。 ⇒ジャンルや装飾、工芸作品について理解できていない生徒については、素材の違いや作品の制作過程の違いについて考えることを促す。
		【鑑】 ・装飾による表現のよさや、工芸作品のよさを理解することができる。 (ワーク・活動の様子)	装飾による表現や工芸作品のよさを十分に理解し、自分の言葉で表現できる。 ⇒活動を賞賛し、やる気をもたせる。	装飾による表現のよさや、工芸作品のよさを理解することができる。 ⇒よさをどのような言葉に置き換えるかということを考えさせ、自分なりの表現ができるよう支援する。	装飾や工芸作品について理解しようとしている。 ⇒装飾や工芸作品のよさが気付くことができない生徒には、生徒の身近にある工芸作品を挙げ、日常生活のなかに工芸作品があることのよさに気付かせる。

	制作手順を知る。	【技】 ・日程を含めた全体的な制作手順と、それぞれの作業段階で使用する道具等を理解できる。 (ワーク・活動の様子)	全体的な日程及び制作手順について理解でき、それぞれの作業段階で使用する道具と使い方等を理解できる。 ⇒活動を賞賛し、さらに細かい見通しと作業について考えることを勧める。	日程を含めた全体的な制作手順と、それぞれの作業段階で使用する道具等を理解することができる。 ⇒作業にかかる時間を想像させ、見通しと作業について考えることを支援する。	それぞれの作業手順を理解しようと努力している。 ⇒なぜこのような制作手順を踏まなければならないのか、という理由を丁寧に説明し、理解を促す。
2	テーマについて学習する。	【発】 ・テーマ設定について理解することができる。 (ワーク・活動の様子)	テーマ設定について理解でき、自分なりに設定されたテーマについて具体的に考えることができる。 ⇒活動を賞賛し、テーマから想像する思いが明確なものとするにはどのような工夫をすればよい考えさせる。	テーマ設定をする理由を理解することができる。 ⇒テーマを設定する意味を確認し、どのようにテーマについて考えれば発想のヒントとなるのか順序立てて考えさせる。	テーマ設定を理解しようと努力している。 ⇒テーマをもって自分が作りたいものを作ることの大切さを、様々な名画のエピソードを交えて紹介し、理解を促す。
		【発】 ・自分なりに篤姫のことについて項目ごとに調べることができる。 (ワーク・活動の様子)	自分なりに様々なソースを活用し、篤姫のことについて詳細に調べることができる。 ⇒活動を賞賛し、調べてきて感じた感想を自分なりに表現させる。	自分なりに篤姫のことについて項目ごとに調べることができる。 ⇒調べてきた内容で、補ったほうがよい内容については項目毎に指摘し、グループ内で教え合うように支援する。	篤姫について調べようと努力している。 ⇒調べ方のヒントや参考資料について紹介する。
	「篤姫」について知る。	【発】 ・「篤姫」のことについて自分なりに調べることができる。 (ワーク・活動の様子)	調べてきたことを基に、自分なりの人物像をしっかりとイメージできる。 ⇒活動を賞賛し、調べてきて感じた感想を自分なりに表現させる。	調べてきたことを基に自分なりの人物像をイメージできる。 ⇒項目毎に調べてきた内容を考えさせ、更に詳しい人物像をイメージさせる。	人物像をイメージしようと努力している。 ⇒思うように調べることができなかった生徒には、グループの生徒が調べてきた内容から自分なりのイメージをつかむことを促す。
		・調べてきたことを基に自分なりの人物像をイメージし、アイデアスケッチで表現したり言葉で表現したりすることができる。 (ワーク・活動の様子)	イメージした人物像を基に文章で表現したり、アイデアスケッチを描いたりすることができる。具体的に「篤姫の小箱」をイメージできる。 ⇒活動を賞賛し、自分なりの人物像から思い浮かぶ形やイメージを深化させる。	イメージした人物像をアイデアスケッチで表現したり、言葉や箇条書きで表現したりすることができる。 ⇒調べてきた内容と、自分なりの人物像から思い浮かぶイメージを	イメージした人物像をアイデアスケッチや言葉で表現しようと努力している。 ⇒イメージがなかなかつかめない生徒には、その人物の生きた時代背景や、行ったことなど

					を1つ1つ想像させ、自由に人物像を思い描くことを促す。
	いろいろな彫り方について知る。	【技】 作りたいと考えている形(立体)を彫るにはどのような彫り方をすればよいか理解することができる。 (ワーク・活動の様子)	作りたい形を彫るための方法を理解し、これを組み合わせて彫る方法を考えることができる。 ⇒活動を賞賛し、それぞれの彫り方でどのように彫刻刀を動かせばきれいに彫れるかを考えさせる。	作りたい形(立体)を彫るにはどのような彫り方をすればよいか理解することができる。 ⇒組み合わせで、更にはいろいろな彫り方ができることを指導し、深化を促す。	彫り方の名前を知ろうと努力している。 ⇒彫り方によって形や手順が異なることを見本を見せながら理解させる。
3	アイデアスケッチを描く。	【発】 技法を考慮しつつアイデアスケッチを考えることができる。 (ワーク・活動の様子)	彫り方の学習で知り得た技法を基に、自分のアイデアスケッチをより良いものにできる。 ⇒活動を賞賛し、更により良いアイデアスケッチしていくように促す。	技法を考慮しつつアイデアスケッチを考えることができる。 ⇒技法について、分からないところはないか確認し、技法を生かしながらアイデアスケッチがよりよいものになるように促す。	自分なりのアイデアスケッチを描こうと努力している。 ⇒言葉でのイメージからアイデアスケッチへの移行が難しいと感じている生徒には、単純な形を並べたり、組み合わせたりと例を示し、じっくり取り組むよう促す。
	アイデアスケッチを鑑賞しあう。	【鑑】 友達のアイデアスケッチを鑑賞する。 (ワーク・活動の様子)	友達のアイデアスケッチに対して、自分なりの意見を持ち、どのようにすればより良いデザインになるか提案できる。 ⇒活動を賞賛し、自分の考えや意見をいろいろな言葉で分かりやすく伝えるにはどのようにすればよいか考えることを促す。	友達のアイデアスケッチに対して自分なりの意見を持つことができる。 ⇒自分の考えや意見をいろいろな言葉で分かりやすく伝えるにはどのようにすればよいか考えることを促す。	友達のアイデアスケッチに対して感想を持つよう努力している。 ⇒友達のアイデアスケッチに対して、なかなか自分の意見を言えない生徒には、よいと思った点や小さな疑問でもよいので箇条書きにして発表することなどを勧める。
		【発】 グループで鑑賞・批評し合い、アイデアスケッチを見直す。 (ワーク・活動の様子)	自分のアイデアスケッチに対しての意見について、積極的に受け入れ、より良いアイデアスケッチを描くことができる。 ⇒活動を賞賛し、更により良いアイデアスケッチにするための工夫を促す。	自分のアイデアスケッチに対しての意見について、よいと思った意見や参考になる意見を基に、よりよいアイデアスケッチを作ろうとする。 ⇒友達の意見の内容をじっくりと考えさせ、他に取り入れたほうがよいところはないか、検討することを促す。	自分のアイデアスケッチに対する意見について参考にしようと努力している。 ⇒自分のアイデアスケッチへの友達の意見に対して、うまく取り入れられない生徒には、その理由を聞く。そして「思いが伝わるデザイン」を考えることを促す。
	正投影図について	【技】	平面図から立体をイメ	立体を平面に描き表す	正投影図について、そ

	知る。	平面図から立体を、また立体から平面図をイメージする方法を理解することができる。 (ワーク・活動の様子)	ージでき、また立体から平面図を正投影図を用いて描くことについて理解できる。 ⇒活動を賞賛し、複雑な図形の描き表し方や他の投影図についても調べることを促す。	方法や、その1つの方法である正投影図について理解することができる。 ⇒イメージしにくい部分などがどこかということをはっきりさせ、個別に指導する。慣れてきたら少し難しい図形を使って描き表すことに挑戦するように促す。	の考え方を理解しようと努力している。 ⇒正投影図の意味が難しいと感じている生徒には、実際に箱を目の前に見せて面を分けて説明する。 ⇒平面図から立体をイメージすることが難しいと感じている生徒には、平面図の角にあたる部分から面に対し垂直に線を延ばし、別の平面図から伸ばした垂線と重なるところが立体の角となることを伝え、面をイメージする足がかりとさせる。
	装飾デザインの平面図を描く。	【技】 自分のアイデアスケッチを基に装飾デザインの平面図を描くことができる。 (ワーク・平面図・活動の様子)	技法を理解した上で自分が考えているデザインを平面図と断面図に描くことができる。 ⇒活動を賞賛し、より見やすい図面にするための工夫をするように促す。	技法を理解した上で自分が考えているデザインを平面図に描くことができる。 ⇒平面図と断面図がズレていないか確認するように促す。	自分が考えているデザインを平面図に描こうと努力している。 ⇒描いている平面図が、立体として制作できない状態の生徒には、1つずつ構造を捉えながら考えることを促す。
4	トレースする。	【技】 平面図に描いたデザインを小箱にトレースすることができる。 (ワーク・平面図・小箱・活動の様子)	平面図に描いたデザインを小箱にレイアウトに配慮しながらトレースすることができる。 ⇒活動を賞賛し、アイデアスケッチとのズレがないか丁寧に確認することを促す。	平面図に描いたデザインを小箱に丁寧にトレースすることができる。 ⇒彫る場所の範囲内にきちんとトレースできたか確認させ、修正しなければならないところは修正するように促す。	平面図に描いたデザインを小箱にトレースしようと努力している。 ⇒トレースする際の注意点を理解させ、丁寧に作業することを促す。
	制作(彫る)	【技】 トレースされたデザインを、いろいろな彫り方で彫ることができる。 (ワーク・平面図・小箱・活動の様子)	木目の方向や作業手順を考えながら、トレースされたデザインを、いろいろな彫り方で丁寧に彫ることができる。 ⇒活動を賞賛し、全体的にバランス良く彫れているか確認させる。	木目の方向を考えながら、トレースされたデザインを、いろいろな彫り方で彫ることができる。 ⇒作業手順を確認し、丁寧に作業するように促す。	トレースされたデザインをいろいろな彫り方で彫ろうと努力している。 ⇒彫る順番や彫り方について、作業手順や技法について復習してから作業に取りかかるように促す。
5	制作(仕上げる)	【技】	最適な大きさや形の木	木片を当て木として使	紙ヤスリで研磨するこ

		当て木を使って紙ヤスリで表面を仕上げることができる。 (ワーク・小箱・活動の様子)	片を当て木として使いながら、適した番数の紙ヤスリで、木目の方向に注意しながら表面を研磨することができる。 ⇒活動を賞賛し、より丁寧な仕上げができるように、当て木の大きさや形を工夫することを促す。	いながら、紙ヤスリで表面を研磨することができる。 ⇒より美しい仕上げをするにはどうすれば良いか考えさせ、当て木や番数を工夫するように促す。	とができる。 ⇒仕上げの意味と大切さを理解させ、当て木を使った研磨をするように促す。
6	制作(塗装する)	【技】 適した塗料で塗装することができる。 (ワーク・小箱・活動の様子)	塗料と塗り方について理解でき、イメージする箱に適した塗料と塗り方で丁寧に塗装することができる。 ⇒活動を賞賛し、重ね塗りなど、より美しく強固な塗装にするように促す。	塗料と塗り方について理解でき、イメージする箱に適した塗料で塗装することができる。 ⇒適した塗料・塗装方法かどうかを検討させ、よりよい塗装をすることを促す。	塗料と塗り方について理解しようと努力し、塗装することができる。 ⇒塗装の大切さを理解させ、塗料や塗り方について調べるように促す。
7	鑑賞する(相互鑑賞)	【鑑】 お互いの作品を鑑賞し、相互批評する。 (ワーク・小箱・活動の様子)	自分の作品のよさや友達の作品のよさを見付け、言葉で的確に表現することができる。 ⇒活動を賞賛し、見付けたよさについて、自分なりの解釈を考えるように促す。	自分の作品のよさを見付け、友達の作品のよさを見付けることができる。 ⇒どのような言葉で表現すれば、自分が感じたよさを伝えることができるか支援する。	自分の作品のよさや、友達の作品のよさを見付けようと努力している。 ⇒デザインや彫り方、仕上げの方法や塗装などの作業項目に分けて考えさせ、作品を見るように促す。